

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年 7月29日

【評価実施概要】

事業所番号	3671700346
法人名	株式会社 エクセレントケアシステム
事業所名	グループホーム えくせれんと鴨島
所在地	徳島県吉野川市鴨島町内原161番地2
	(電話) 0883-26-1919
評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成19年 7月 20日

【情報提供票より】(平成19年 7月 3日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年 1月 21日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤	16 人, 非常勤 0 人, 常勤換算 8.6 人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	1ユニット18,000円・2ユニット25,000	その他の経費(月額)	共益費 I 8,900円 II 10,000円・ その他実費	
敷 金	有() 円 (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,050 円			

(4) 利用者の概要(7月3日現在)

利用者人数	17 名	男性	4 名	女性	13 名
要介護1	5 名	要介護2	4 名		
要介護3	6 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 81.5 歳	最低	73 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 鈴木内科
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所の2つのユニットの間だを利用して中庭を作られ、植木や季節の花が植えられている。また、ベンチや机が置かれ、散歩や会食等にも利用されたり、時には地域の方も立ち寄りたりし、交流が図られている。地域密着型サービスの意義を全員で認識し、家庭的な環境と地域住民との交流の下で、利用者が地域の中でその人らしく、看取りまで暮らし続けられる支援がなされている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	介護計画の作成や見直し等は、本人、家族の希望や変化等に柔軟に対応され、本人本位の介護計画の作成がされているが、地域資源を視野に入れた個別具体的な介護計画の作成が望まれる。それ以外の改善課題については、管理者、職員で評価結果の見直しや話し合いをされ、評価結果を活かした具体的な改善と取り組みがなされていた。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	運営者、管理者、職員は自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、自己評価はユニット毎で職員によってまとめられ、運営者、管理者とともに評価を活かした具体的な改善に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	今年度の運営推進会議は開催されておらず、8月に開催が予定されている。議題には事業運営や外部評価、職員の異動報告等のほか、利用者の家族との意見交換と苦情の聴取等が盛り込まれている。市の職員の運営推進会議への参加が望まれる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	意見箱は設置されているが、苦情、不満への意見はない。面会時、家族の会、訪問時に不満苦情等、事業所に対する意見を聞く努力がなされ記録されていた。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入はしていないが、小学生との交流や、地域行事、地域の清掃活動等に参加しており、地域との交流がされている。また、近隣の見守り支援もある。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念はパンフレットやホーム内に大きく表示されているが、地域密着型サービスを反映した理念には至っていない。	○	地域密着型サービスを反映した理念は、ホーム内やパンフレット等に早急に明示する予定であるため、取り組みに期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	地域密着型サービスの意義を職員全員で認識し、地域生活の継続支援に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	小学生との交流や、情報収集により地域の行事(七夕祭りなど)、地域の清掃活動に参加するなど、地域との交流があり近隣の見守り支援もある。	○	自治会等への加入がされていないため、今後、参加できるように取り組みに期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者、職員は自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、自己評価はユニット毎で職員によってまとめられ、運営者、管理者とともに評価を活かした具体的な改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	平成18年度は2ヶ月に1回開催されていたが、本年度は未開催である。(グループホームの事情により)	○	8月に開催予定であるが、今後、定期的に行えるよう取り組まれない。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は市の地域包括支援センター運営会議に参加することにより情報交換等を行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	「えくせれんと鴨島通信」により全体の様子を伝え、個々の利用者の心身の状態変化時や、家族の来訪時にきめ細かく報告がなされている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等から気軽に意見・不満・苦情等を伝えられるように、職員や事業所側から意見等を積極的に聞く努力づくりがなされている。運営推進会議(平成18年度)での意見・苦情は事業所内で検討し、質の向上を目指す取り組みがなされている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	事業所側の都合で、職員の異動が優先されることなく、利用者にとってなじみの職員が継続的に支援していた。職員は普段から出勤時に双方のユニットに挨拶にまわり、なじみの関係づくりに務め、交代する場合も引継ぎの期間を十分に取る配慮がなされている。	○	離職者が多かったため、法人・管理者間で話し合わせられ身分保障等の改善に取り組まれていた。今後も継続していかれるよう、取り組みに期待したい。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は全職員の質の確保・向上に向けた育成が不可欠であることを理解し、育成を具体化する方針や姿勢がある。研修後は研修内容を職員で共有する仕組みがあり、実践されている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他法人のグループホームと交流しており、相互訪問や勉強会等、職員研修にも活かされており、サービスの質の向上に取り組まれている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が何を大切にしたいかを知ることから始まり、意見を聞き取れない場合は家族等と話しあいながら、利用者の視点に立ったサービスを、時間をかけて馴染みながら利用できるよう柔軟に支援がなされている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者独自のペースを理解・尊重し、ペースに合わせて共に支えあう日常生活支援がなされている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との日々のかかわりの中で、言葉や表情などから思いや希望、意向をそれとなく確認するようにしている。家族や関係者からも情報を得ている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者が自分らしく暮らせるよう本人や家族の要望を聴き、事業所外の関係者の意見を含めて課題となることをスタッフ全員で話し合い、介護計画の作成に活かしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の遂行状況、効果などを評価すると共に、職員が記録する状態変化や状況、家族・本人の要望に応じて見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者がやむなく入院した場合、家族と相談しながら馴染みの職員が状態把握等に努め、利用者の立場に立ったサービス提供をおこなっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者が係りつけ医の医療を受けられるよう、家族と協力し通院介助を行ったり、事業所の協力医療機関の支援も受けている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化に伴う指針ファイルを作成し、家族、医師、看護師を交えて話し合い、変化があれば家族や本人の意思を再確認し主治医を交えて対応を話しあっている。		
1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけを全職員がしないよう配慮している。職員は個人情報保護法の理解に努め秘密保持の徹底に努力している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの状態や思いに配慮しながら利用者のペースに合わせた柔軟な支援がなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に家庭菜園で栽培した野菜等を収穫して共に下ごしらえをし、利用者と職員が同じテーブルで同じメニューの食事を楽しんでいる。メニューは旬のものを取り入れ、食べ残しの少ない工夫がされている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望に合わせて、24時間いつでも入浴できる体制が整っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	得意分野で一人ひとりの力を発揮してもらえるよう、支援し、感謝の気持ちも伝えられている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者が重度化し、集団での外出は難しくなっているが、少人数で繰り返し外出できるよう、支援がなされていた。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関には施錠はされていない。万が一に備えてセンサーによりチャイムが鳴る仕組みがあり、鍵をかけないケアがなされていた。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時のマニュアルがあり、訓練が実施されており消防署等との連携もされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況を、毎日チェック表に記録し、職員が情報を共有している。食事、外出後、入浴後などは特に気をつけて水分補給をしている。水分量の少ない利用者には声かけして、水分摂取に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の生花を飾ることで季節感を感じられる配慮がされており、空気清浄機で快適空間づくりを図っている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンスやイス、写真など利用者の馴染みのものを使って居心地のいい部屋づくりがなされている。		